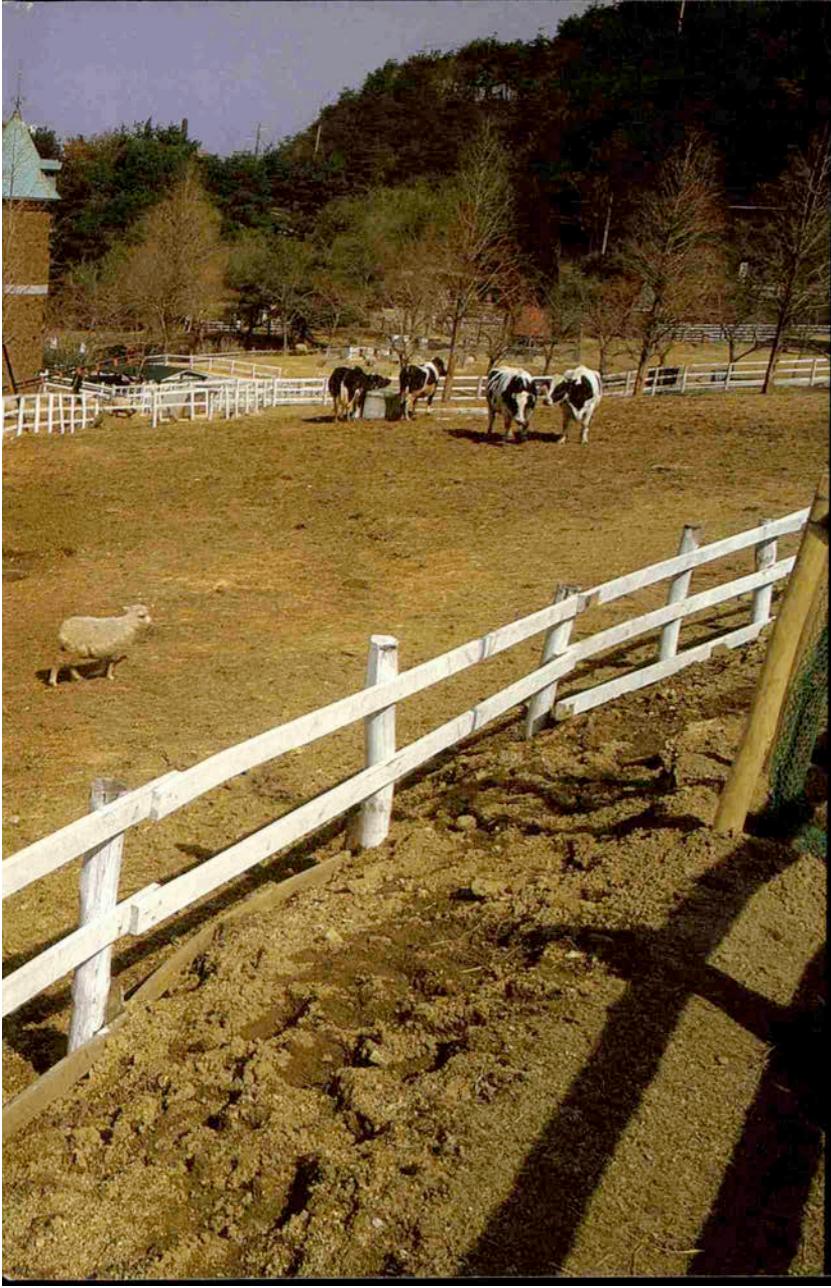


神戸の風色

KOBE ● FUSHOKU

堀内初太郎 NO.56





ギリ
スへ
特典



8月
年振

真珠を軽やかに感じたら・あなたは・もう・夏の妖精...



南洋真珠ペンダント/左から ¥780,000(エメラルド、サファイヤ、ダイヤ、18K)
 ¥850,000(サファイヤ、ダイヤ、18K) ¥700,000(エメラルド、サファイヤ、ダイヤ、18K)

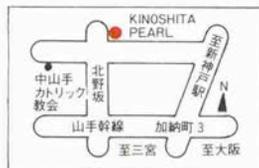


WHOLESALE & EXPORTER of Cultured Pearls

KINOSHITA
PEARL
CO.,LTD.

Order Salon

〒650 神戸市中央区山本通1丁目7-7(北野坂)
 TEL (078) 221-3170
 10:00a.m.~6:00p.m. 本曜日定休



白い砂が、透明になる魔法。

いったい誰が考えついたのでしょうか。

珪砂から透明な物質——ガラスを生み出す技を。

海岸の白砂に激しい落雷があった時、

その熱と速力で天然ガラスのできることがあるそう。

自然は偉大です。

世界最古のガラス製法秘伝書がメソポタミアに

ありますが、それが起源かは疑問です。

それにしても、誰が…。

●サンルイ ゴブレット 13,500円〈5階特選食器売場〉



DAIMARU
大丸・もとまち





*グリ・トリアノン。(右)、*レイエ。(左)、*ダミエ。(左奥)



3つのトランクに収められる組み立て式二輪馬車

パリ、マルソー街のルイ・ヴィトン本店2階に、昨年11月「カバン博物館」がオープン。そこでは、時代による「旅行」の変遷、それを反映するカバンの変遷を眼のあたりに見ることが出来る。

神戸は横浜と並ぶ港湾都市として昔からエキゾチックなハイセンスな街として旅する人々に愛されてきた。このほど神戸で行われた第1回「神戸フランス週間」のためにルイ・ヴィトンは「カバン博物館」の貴重なコレクション約30点を公開した。

鉄道の時代の到来とともに、ルイ・ヴィトンは新しい型のトランクをつくりだした。荷物車のなかで重ねられるように、ふたを平らにし、衣類がむだなく合理的に整理できるように、形と大きさをあらためて研究。グレイの無地のこのトランクは「グリ・トリアノン」と呼ばれ人気を集め、その後にベージュと褐色の縞模様「レイエ」市松模様「ダミエ」と次々に新しいトアル地を発表した。

1879年、ルイ・ヴィトンは探検家サヴォルニヤン・ド・ブラザのために折り畳み式のベッド・トランクを、また、1910年には、まさに珍品とも言える「組み立て式二輪馬車トランク」もつくった。

1896年「グリ・トリアノン」以降後をたたないにせものづくりに悩まされたルイの息子ジョルジュ・ヴィトンは、星と花と父親のイニシャルであるLとV

たどる旅 『時を ルイ・ヴィトン展





お中元贈答好適品 ゴール



ゴールとコーヒーゴールの
おしゃれなセットです。

ゴールダブル

缶入 5,000円 50W 27枚 2缶
3,000円 30W 15枚 2缶
2,000円 20W 10枚 2缶

パナラ・ストロベリー・チョコレートのクリームを
サンドしたさわやかな風味は、お子様からお年寄り
までひろく愛されています。



神戸 風月堂

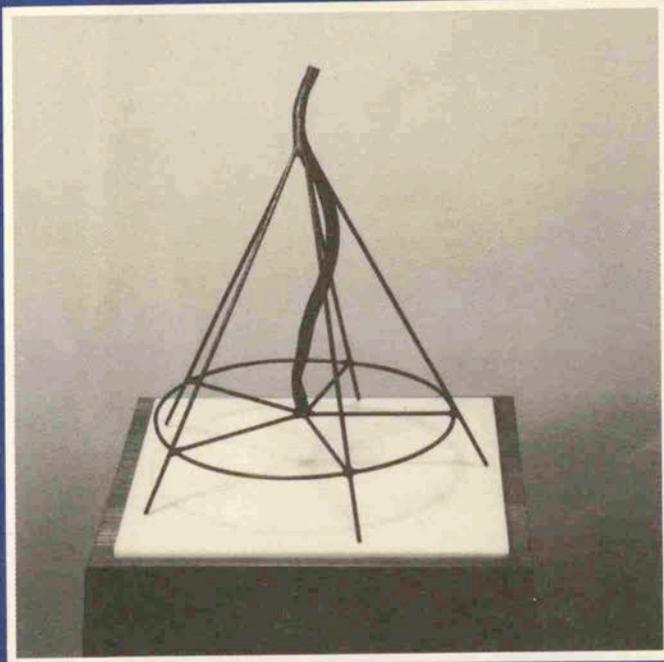
ミニイ ゴール

本 社 ・ 神戸市中央区元町通3丁目3-10 ☎(078)321-5555

これは神戸を愛する人々の雑誌です
 あなたのくらしに楽しい夢をおくる
 神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
 これは神戸っ子の手帖です

8月号目次●1984・No.280

表紙／小磯良平
 セカンドカバー／スケッチブックから'68'ヨーロッパを描く／西村 功
 9 神戸っ子'84／西 由美子・宇津誠二
 12 ある集い／馳走会／半田博一
 14 2001年への出発・淡路一愛ランド博"くにうみの祭典"
 16 エトランゼの輪郭'30'／品川裕治郎
 18 神戸の風色'56'／堀内初太郎
 29 わたしの意見／滑川敏彦
 31 随想／坂本吉章／流輝由紀子／フランシスコ藤塚
 34 随想 旗のかたち'1'／安水稔和 え・中西 勝
 36 こうへ味な旅'2'／村松友視 カット・石阪春生
 39 第8回井植文化賞発表
 文化芸術部門／安水稔和・科学技術部門／西塚泰美
 報道出版部門／春川和子・地域活動部門／KICS
 社会福祉部門／神戸東部地域入浴サービス実施委員会
 46 インタビュー／辻村ジュサフロー"人形にも生命がある"
 48 キャンペーン／"神戸学"によって21世紀の都市づくりを
 54 経済ポケットジャーナル
 55 地域文化論(その60)／下降天気と上昇地気／垣内秀夫
 56 この夏、おいしい神戸味情報
 64 話題のひろば 石野信一神戸議会議長の叙勲を祝う
 66 元町キャンペーン(座談会)／元町をハイエレガンスなゆとりの町に
 70 インタビュー／ルイ・ヴィトンカバン博物館担当
 ドミニク・クレマンソーさんを訪ねて
 72 ふたたびプロフェッサーPの研究室／岡田 淳
 74 ファッションレポート／クリスチャンティオール・フランチャイズ
 フティック元町店 黒田夏代店長を訪ねて
 76 ファッションズボット
 83 コウベスナップ
 84 もうさんのHYOGO-WALK'4'／マンガ・高橋 孟
 88 小山乃里子の華麗なるKOBE見てある記／竹中木工道具館
 117 コーヒーブレイク
 118 動物園飼育日記'225'／亀井一成
 123 神戸の集いから
 124 神戸を福祉の町に'128'／橋本 明
 127 KFSニュース
 128 有馬歳時記'8月'
 132 兵庫界隈記'40'／わが町・兵庫の"ぼんくら"族／堀尾貞治
 134 ふらっしゅ・ぱっく'46'／淀川長治
 136 KOBE MODERN CULTURE
 138 コスモ・ファンタジー／キツネ・キツ・ヨルノトノ(最終回)／佐藤晴美
 145 びっといん
 146 神戸百店会だより
 148 ポケットジャーナル
 152 多田智満子・午後の対話／ゲスト・ジャスティン・ヴィデウス
 158 連載小説／薔薇の発音(第3回)／菊池佐紀／絵・池内 登
 178 NEUE MODE MARCHEN'78'／藤原麻子
 180 連載エッセイ／風のファンタジア'8'／吉村由美
 182 海船港／天津港で活躍の鳥居幸雄氏に聞く
 カメラ／米田定蔵・橋本英男・田村 康・プレゼンツ
 池田年夫・松原卓也・坂上正治・藤原信二



目次作品／宮崎豊治 身辺モデル

女。——それは感性遊戯。高塚省吾／絵



女、鼓動てますか。

業界で脚光を浴びている当社独自の瘦身美容。

エステティシャンが考え、素肌美だけを追求した*バミール化粧品。

コスモポリタンシティ、神戸・元町を拠点に全国各地へ、次々とオリジナル・ブランドを発表。

今回は特に2時間で5.5kgの瘦身美容と、肌をやさしい
オリーブオイルのフェイシャル美容を、お1人様1回限り
無料にてお試し頂けるよう企画致しました。(神戸店のみ)

札幌・仙台・青森・盛岡・北沢野・大宮・和歌山・神戸・広島・山口・徳島・高知・博多

コスメテックス神戸コーポレーション

神戸市中央区栄町通1-2-29 豊和ビル3-4F

無料体験シリーズ予約係 078・391・4077(代)



国後・根神元町駅

元町商店街

西宮町

●大丸
●新川
●新

コスメテックス神戸コーポレーション

お試し券
神戸っ子8月号



Autumn Collection

秋は感性のステージ

リザ・サロン

ベンチ

Caro's

VICTOIRE

ダイアナ

サイズショップダイアナ

ルベール

ランプ

CAN

ゲルラン

東京屋

新宿・高野

BONフカヤ

ココ山岡

ブランコ

ホットマン

三愛

電話078(332)1698

FASHION

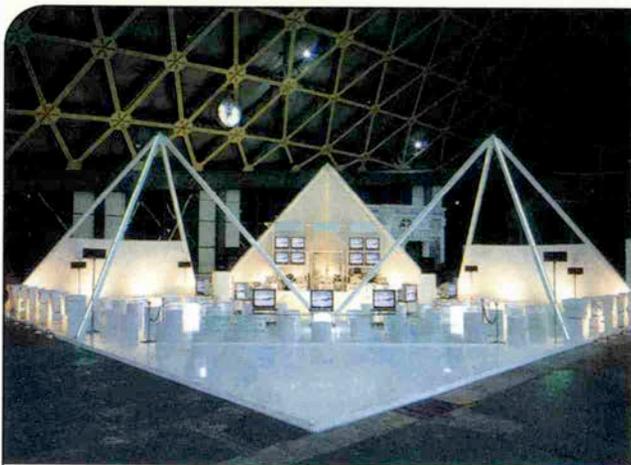
PARK

神戸・三宮(さんプラザ・センタープラザ)

3F

営業時間 ———— A.M.11:00~P.M.8:00

FUJIYA SOFT IMAGING
SPACE DESIGN



空間をかえる

———体験から実感へ……

Video Accumulationと名づけたフジヤの映像displayの空間!!

T.Vモニターとミラーといったハードな素材・機材との組合せ——。
 これをデザインすることでご体験いただきましたように、神秘的でかつ、幻想的ともいえるイメージの世界を創り出すことができます。
 わたくしたちフジヤでは、すでに永年にわたり映像をスペースデザインに活かすべく、数々の試みをくりかえしてきました。
 今回はそのひとつの様式を提案するにとどまりましたが、これからのディスプレイの演出方法に映像を初めとする、ニューメディアの応用は無限の可能性が秘められていると考えています。



株式会社フジヤ神戸店

- **ディスプレイセンター** PHONE (078) 882-1011
デパート・ショッピングセンター・商店街等の物販催事、文化催事、物産展、プロパー・装飾/店内・店頭ディスプレイ、ウインドウディスプレイ/異業展示会・ホテル宴会、パーティ各種式典/ディスプレイ器具・会場設置用器具・什器・備品・植栽・テント・マネキン等のリース/展示会場運営・附帯サービス
- **エキジビジョンセンター** PHONE (078) 302-5661
見本市・展示会・イベント・コンベンション・ショー・パレード/POP/その他SPツール/展示会場運営・附帯サービス
- **ストア・プランニングセンター** PHONE (078) 232-3661
デパート・ショッピングセンターの内装、専門店・専門店チェーン店の内外装、ショーケース、店舗用什器/ショールーム・住宅・オフィスのインテリア
- **徳島営業所** PHONE (0886) 53-8082

お問い合わせ

株式会社フジヤ神戸店
 〒651 神戸市中央区浜辺通5-1-14
 神戸商工貿易センタービル23F
 PHONE (078) 232-3661(代)
 東京・大阪・京都・名古屋・福岡・横浜
 仙台・広島・札幌・金沢・新潟



☆私の意見

地域文化の

向上に

ニューメディアを

滑川 敏彦

△大阪大学工学部教授▽



私が所属している、関西ニューメディア研究会は、昭和58年5月28日創立された、ニューメディアの利用法を研究する日本最大の研究会です。

現在、メンバーは500人で、全員、ボランティアで参加しています。その中には、関西で唯一、双方向テレビジョンの実験をしている、生駒のハイ・オービス劇場のスタッフも含まれています。私は、この研究会を通して、ニューメディアの啓蒙、普及に努力したいと思っています。そのための研究会や海外視察なども実施しました。このたび、神戸市の方から、西神地区、学園都市でのニューメディア開発を進めたいという話があり、さっそく、神戸市ニューメディアシステム開発研究会をスタートさせました。

ニューメディアには、キャプテンシステムとケーブルTVがありますが、私は、ケーブルTVの利用法を特に考えています。ケーブルTVは、地下を走るケーブルで映像を送るので、電柱やアンテナの必要がなく、町の美観を守ることができチャンネル数も無限に増やすことができます。また、放送局と家庭が直接つながっているので、まるで自分が主役であるかのように番組に参加することもできます。新聞よりも地域に密着した媒体です。だから地域文化の発展にケーブルTVが最適です。特に神戸では、六甲山があつて、その裏側ではテレビが見にくい地域があります。そういう地域にケーブルを一本ひくだけで、ケーブルネットワークが完成します。神戸はケーブルTVが成立する条件を持っています。しかし、単にケーブルで結ばれただけでは、従来のテレビと同じです。視聴者が番組を作つてこそ、ニューメディアとなるのです。私は、まず神戸に、市民の方が番組を制作し、運営する放送局を作りたい。そして関西の各地に小規模のケーブルネットワークが作られ、地域社会のコミュニケーションが円滑に行なえるようになり、地域文化の向上を図れるようになれば本当のニューメディア時代の到来だと思えます。

(談)



フルーツなデザート

冷た〜い、ユーハイムのデザート

果汁、果肉をふんだんに使い、フレッシュな風味をそのままバックしました。

もぎたてのフルーツの香りが、気分をリフレッシュします。



ユーハイム

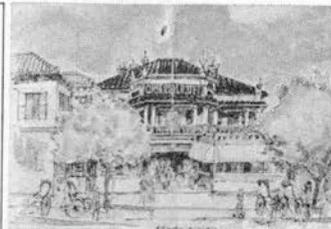
伝統のホテルで、永遠の愛を誓う オリエンタルホテルの ご結婚式

明治、大正、昭和、
神戸のロマンとノスタルジー

オリエンタルホテルには、明治から大正・昭和にかけてのロマンとノスタルジーの香りがあります。

1980年代の今日、ホテルは今や人々の新しい広場になりました。洗練された挙式は103年の歴史を誇るオリエンタルホテルにおまかせください。きっと愛の記念日として心にくる結婚式になるでしょう。

心なごむ挙式前のお点前、雅楽流る中での三々九度、暖かい祝福に包まれる披露宴、お慶びの中にも格調あふれるご婚礼を、経歴豊かなサービスでお手伝いたします。



留居地時代(明治15年頃)
のオリエンタルホテル



心なごむ挙式前のお点前
は3階お茶室で

真心とサービスで素晴らしい門出を

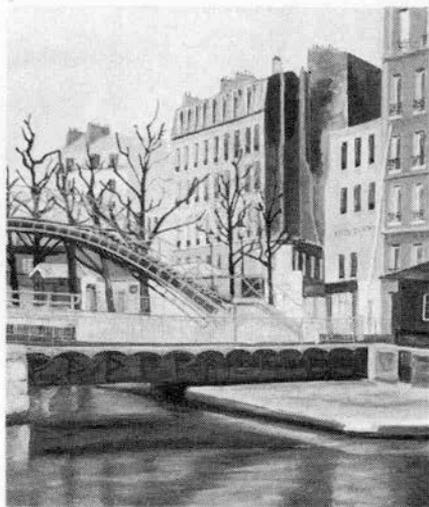
※オリエンタルホテルで挙式、ご披露宴をなされたお二人を、ご結婚一周年記念日の晩餐にご招待申し上げます。



神戸オリエンタルホテル

神戸市中央区京町25番地
TEL 078(331)8111

随想



カット/坂本吉章「サン・マルタン運河-2」

たゆたえども沈まず

坂本 吉章

△画家△



13年前、毎晩のように三宮で酒を飲んで、毎日が無意味で無気力で、唯々、飲んだくれていた時に「おれはパリに行く」と口走ったそうです。なん日か後、友人が「いつパリに行くのか？」と聞いてきました。私は何んのことか解らず、反対に、「何んの話だ」と聞き返し過日酒を飲んだ時の話のいきさつを聞き、「酒にこそ真実有り」と早速、パスポートや航空券などの手配をして、見知らぬパリに出掛ける行きましました。

言葉も解らず、五カ国語の辞書を指しながら、タクシーの運転手に案内されたホテルで、とりあえず、三泊の予約をしました。朝、ホテルを出て、真すぐ歩くのみ。夜ホテルの室で銭勘定。何にも使っていないのです。次の日も同じことです。強度の緊張感で、食欲もなく、キャフェもビールも何も飲んでいないのです。三日目にBARと看板のある店に入り、ウィスキーと注文しますと、「スコッチ？」と聞きかえされて「そうだ、そうだ」といいながら、一杯、二杯と飲むうちに、気持ちも落ち着き、つきものが落ちたように、これでパリでやって行ける、と思っただけです。ここにも酒の力があつたのです。

それ以後、今日迄、色々な酒を飲みながら、うさを晴らしたり、

気分を転換などに酒を楽しんでおります。

酒の話は、この辺にして、13年間のパリ生活でのフランス及び日本の印象を申しますと、今の自由主義世界においては、経済面だけを中心に考えがちのように思われます。『文化をなくしての経済交流はまったく無意味である』と経済人、文化人、政治家、と色々な方がいっております。今の日本は経済大国です。我々も背景に日本経済大国があつて生活が出来るのでしよう。フランスは、反対に文化大国だと思います。パリ市役所には、「たゆたえども沈まず」と石礎があります。まさしく文化のある国がいえる言葉だと思います。そのような環境の基で絵の仕事ができるのは、恵まれていきます。

人間関係においても、外国ならではの付き合いの幅の広さと申しましようか、仕事の違い、出身地が違う、年齢が違つていても、お互いが助け合つて生きてゆくといった風です。同じ絵を画く先輩や同年輩の友人も、それぞれが、適当な緊張感を持って、真面目に生活しているのも、良い環境だと思います。

日本は単一民族で、多神教である反面、無信仰であつたり、唯々勤勉で自己主張がなく、まったく平和そのものです。日本という環

境がそれぞれ日本人に影響を与えていると思います。各人がより良い環境をつくってください。フランス人は、エゴイストといわれるくらい、自己主張をします。良い意味で見習っていきたいと思います。私が私も日本人でしょうか、不都合の多いパリ生活ですが、優柔不断に自己管理をしながら、しばらくは10年20年と、これからもパリ暮しを続けることでしょう。

神戸と染と花と

流郷由紀子

▲染色家▼

教室展をラインの館で開催して四年目。風格のある、美しい洋館建ては京都から移り住んだ私にとって、エキゾチックな夢の世界。室内染が聞こえてくるような生活を想像させる。窓からは、雨に濡れた輝やく木々の緑。壁だけのギヤラリーに並べるより、はるかに生き生きしてみえる作品達。

家族の好きな花をテーブルクロスに。部屋にあったカーテン、自ら作るファッションの数々。いろんな所でいろんな思いで出会った花を圖案にして染めていく。今はまだ、自分達のため、友人のために染めた物ばかりで、この館にピツタリという訳にはいかないが、そのうちに、室内に音色を感じるようなムードある作品を並べられ

たらと、思っている。

京都の大学研究室勤務時代は、植物園に通い、また花屋さんから届く花を、子供が小さい頃は、散歩してみつけた路傍の花を。そして今教室の方達の庭に咲く花、旅をして書いた花を元に染める。同じ花でも、毎年新鮮な感動を与えてくれる。

正倉院の御物をはじめ、先人の立派な作品をみるたびに魂が震えるような、興奮を経験し私もいつかはと、草木染、その他の染に携わってきた。それがこの神戸に来た途端、自分のおかれた環境のためだろう。技法もやり方も矛盾なくかわって来ている。難しい染法や、展覧会用の作品だけを目的にした染では、今の生活から離れた世界。潤いのある生活のため心こもった品々を美しい色で染めていこう。あこがれの港町、六甲連山の自然、そして空気の色、空の色が私を自由にさせてくれたのだろう。高山植物園、森林植物園、離宮公園と身近に花達にめぐりあえるのもうれしい。

個展で、花をテーマにした作品に感激した、といつもみて下さる方、思い思いの花と布をもって集まってこられる人も増え、一日中楽しい染の教室がはじまった。多くの友が得られたことは、私にとって、作品の評価よりすばらしい



今年の教室展にて・筆者

収穫である。東南アジアの奥地へ行くと、子供や女性が青空の下で一日中染めたり、織ったりしている。近く草木の汁で染め、川で洗い、砂地で干している光景は、ごく自然の営み、私達も稽古事ではなく、芸術家としてでなく、家事の一つとしての染という認識をすればいいのではないか。そこから次の时限の染への発展があるのだろう。柔軟な感受性で美を追求し素材を選び、色、圖案を考えて創作する楽しさ、身近かな人のために役立つ物を作っていくことが、教室の方達との課題の一つである。

一滴の水が川となって流れていくように、私も一カ所に漂ってはいけけない。自在なる道を見つけて常に物に感動し、それを表現する力を養いつつ人生を送りたいと思っている。この秋には個展での出合いがあって、パリに出展することになった。神戸で得たと同じように、パリの生活、友人、花との新鮮な出合いを私の流れの一つとしてとらえたいと思っている。

思い出多い 神戸とサンバ

フランシスコ藤塚

〈神戸ブラジル領事館事務官〉

「今年文化ホールに出ようかな。最後になるかも知れないから……」「ぜひ出て下さい……」神戸まつり一週間前の私とコバカバーナのオーナー河野さんとの会話であった。文化ホールの舞台でクイツカをひくことはもうないだろうと思ったからである。その時点では最後になるという実感はなかったが、東京行きが刻々とせまってくる今、本当に複雑な気持である。きつとあの舞台が、そして今年の神戸まつりがよい思い出になることだろう。

思えば私の人生の中の大変大きな部分をしめる神戸での二十年の生活は神戸まつりとの二十年のつきあいであった。写真アルバムをめぐっていると忘れかけていたシーンが次々とうかんで来る。カルドーナ領事との出会い、船員のバツカードとの出会い、神戸っ子のミコさんとの出会い、最初のカー



今年のサンバコンテストで司会のシコさん

ニバル
パーティー、
甲南大
学でサンバを
コーチ
したこ
と、神
戸まつ

り、そしてサンバの始まりだっただけに印象深いものがある。ブラジルでは私はサンバに余り感心がなかった。中高時代に行進ドラムスをやっていた関係で打楽器が好きなだけだった。そんなわけでサンバのコーチなど自信もなかったし、また、音もマルシヤ(マーチ)的になってしまったが、当時とはかくも必死だった、そしてそれが少くとも今日へのつなぎとなったのだと思う。当時はサンバといえど、ブラジル領事館と神戸っ子チームしかなく、まつり同様、今程の華やかさはなかったが、何故か印象に残っている。そうして我々と神戸っ子が持込んだサンバは二十一年たった今、神戸まつりの花とされ、サンバで幕が開き、サンバで終るのである。それを考えると我々は神戸のために何かをしたんだと思う。

当初は今程サンバ熱もなく、祭りのためだけのものに過ぎなかつ

た。何度かバツカードをつくらうと考えて見たが、当時は誰も関心を示さなかったものだ。そんな中で私にそれまで一度も手にしたことがなかった楽器クイツカを始め、神戸まつりによくモモ王(カーニバルの王様)として出場してくれた同僚のシャヴィエルだった。当時日本には殆んどなかったことから、彼がリオの友人に送ってもらったのである。元来私はカイシヤ(スネア)たたきで、今でも二本のスティックの方が楽なのだが、やればやる程難かしくなるクイツカの魅力にとりつかれてしまったようだ。これも神戸まつりのおかげのように思う。

サンバと神戸まつりはまた私にいろんな人と出会う機会をつくってくれた。現在のサンバ熱を機にその人達と今一度サンバを勉強し直そうと思っていたやさきだけに本来は喜ぶべき東京大使館転勤もある意味で残念に思う。しかし今やサンバは神戸まつりと共に神戸から消えることはなく今後発展の一途をたどるものと思う。その中であって神戸っ子にはいつまでも華やかな姿を見せてくれることを期待したい。

神戸、そして多くのサンバ仲間の皆様、有難うございました。まつりにはきつとかけつけます。



左よりシコ藤塚/ジョア
ン副領事/藤塚前副領事

随想

旅のかたち

(1)

部屋

安水稔和
絵／中西勝

春から編集を進めていた詞華集の収録詩人が決定してよいよ作品の選出にとりかかったのは冬の入口だった。重い本を何十冊何百冊持ちまわることかなわず。わが家の庭に面した一室に戦後の神戸の詩集詩書四百冊を並べた。ことのほか長い寒い冬のあいだ、日曜日になるとお昼過ぎに共編者君本昌久が高取山麓から観音山南面のわが家へあらわれた。数時間の白熱の討議がつづき、気がつくと庭に面したガラス戸は一面に白く曇って水滴が幾筋も流れてレースのカーテンの裾をぬらししている。掌でガラスを拭いては白む戸外をのぞくと庭の木々が雪をかぶっている、そんなことが何度か。ストーブを燃やしつづけていても足もとが冷えこみ、知らず知らず足をあげてソファの上であぐらをかいている。私がスキー用の大きな毛糸の靴下を出してきてはけば、次の日曜日にはわが相棒はやはり大きな部厚い靴下を持参する。

昨年一年間私は某誌詩集月評を担当して千冊の詩集に目を通したのだが、ひきつづいての今度の仕事で目も心も疲れて突然に雪の山陰関金温泉露天風呂へ逃げ出せば、わが相棒もまたあれやこれやに加えてのあまりの詩集読みに目が充血、生まれてはじめて眼医者^の門をくぐる。

数時間の討議のあとは当然のように酒。長く寒

い冬のせいだろう、ことのほか酒量はすすみ、毎回二本のペースで台所の隅に空びんが並ぶ。作品選出もおわってほっと一息、やっと春めてきたある日、廃品回収に出した空びんが三十本近い。大酒飲みの家のようですすがに恥かしかつたと家人こぼす。

苦心の詞華集やっと刊行の運びとなった今、思いかえせばこの冬のわが家の庭に面した部屋がはっきりと浮かびあがる。戦後四十年を旅した部屋。なつかしい親しい詩人たちに邂逅した部屋。ことは・ことは・言葉の部屋。今にして夢のような。

三年前の暑い夏はわが家の二階の一室だった。中学生のための旅の本を書き下すために自分で自分を書き下すために。長田の町が見えるその部屋はもともと宙に浮いたような部屋だが、クーラーをつけて窓をしめて戸をしめて、こもりつきりで原稿書いているとまさにカンヅメの魚気分。部屋のまんなかに机を置いて座ぶとんを置いて坐りこんで、時々立ちあがって階下へ降りて本を持ってあがって、蟻のようにせせせと運びこんで机のうえに机のまわりに畳のうえに開いて並べて積みあげて。

書いているあいだ、これまでのさまざまの旅の



masamu, No.

こと、行った土地のこと、出会った人のこと、次々と思いかえしていた。自分の旅だけでなく、なつかしい親しい私の旅人たちの旅も去来した。さらには、行けなかった土地や会えなかった人さえもが立ちあらわれた。あの夏、あの部屋は暗室のようであり、暗箱のようであり、気球のようでもあり、スペース・シャトルのようでもあった。

わが家のことばかり書いた。旅先でのことも書いておこう。

十三年前。寒い夏のことだ。秋田湯沢の駅前の旅館。物見櫓か。望楼か。三階の一室。窓の手すりに寄りかかり見るでもなく窓の外を見ている。目のしたにかわいた駅前の広場。駅の建物のむこうに仙北の野のひろがり。山のつらなり。

うすぐらい部屋の隅の机のうえに本が置いてある。旅に持ち歩いている『菅江真澄遊覧記』だ。

「秋田のかりね」の個所が開けてある。なつかしい親しいわが旅人はこの町にたどりついて生涯の旅の二年目の新年を迎えた。

あのくろくずんだ森かげのあたりが柳田村だろうか。とすれば、そのすこし先を雄物川が流れているはずだ。さらにそのむこうの夕もやに煙っているあたりのあの集落が西馬音内だろうか。しかたは見えず七曲峠。その先の見えない谷あい田茂沢。さらに先の焼山。その先の。目を見開いて見るとく、なにも見えず、茫茫と空間のひろがり。時間のながれに目をさらしている。

西馬音内。夜明けの小川の意。今夜あの町に人が集まる。生きている人、死んだ人、さまざまの縁につながる人々が闇のなかで出会う。火のまわりで踊る。このうえなく美しく哀しく踊る。

陽が落ちると私はこの部屋を出る。野のむこうのあの町へ出かける。物見櫓のような望楼のような一室に座して私はいっとき幻視する。これから始まるであろう私の真澄探索の旅のあらましを。野はゆっくりと色を失い、今しも闇を迎えいれようとする。

△詩人△

★「神戸の詩人たち―戦後詩集成」

神戸新聞出版センター刊 千八百円

ジャズ& ステーキの 世界

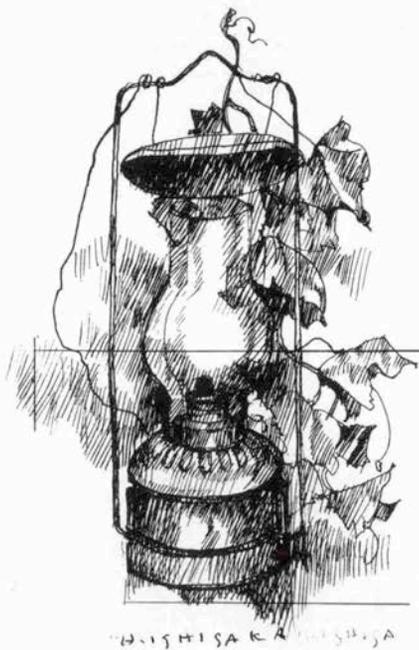
村松友視（作家）

カット／石阪春生

神戸の味について語るといふ資格は、本当は私にはない。いや、そうではなくて味について語る資格がないと言った方がいいだろう。第一、私はグルメという言葉がきらいであり、世の中に食通と自他ともに認める人物が存在することを、まことに苦々しく思っているひとりである。

では、物の味なんて好きずきであり、旨いときは何でも旨い、まずいときには何を食べても受けつけないという立場かと言えば、これともちよつとちがうから厄介だ。

たしかに、腹ペコのときは何を食べても感動するし、おなかがいっぱいときには山海の珍味や極め付の料理を出されても無意味ということはある。だが、それにもかかわらず「絶対に旨い物」といふ世界はたしかにあるらしい……そういう想像はできるのだ。そして、その「絶対に旨い物」といふ世界を味わう資格を、自分が持ち合わせて



いないことに苛立ちながらも、グルメとしての実績を積んでみようとする情熱がない。そのくせ、旨い物に出会ったときの感激は、人並以上に生じるというのだから、まったく処置のしようがないというタイプであります。

つまり、何の努力もしないでやせる方法を考えている中年女の世界か……私と旨い物は、偶然に出会うより手はないという感じだ。そして、旨い物と私が偶然に出会ったとき、私はたしかに感動してしまふのだが、その旨い物の味を吟味できたかとなると、またもやめげてしまふのだ。ありとあらゆる装置を動員して組み立てたステレオの前で、それを聴き取る耳を持ち合わせていない自分に気づき、坐り込んでしまふ姿に似ているかもしれない。

だが、そのへんにとことん疑問を持ってしまふこと自体が、あらゆるジャンルにおけるグルメの

資格を失う源かもしれない。人間、あるところでポンと楽観的な風通しのよさをもつ才能がなければ、袋小路に入ってしゃがみ込むだけになってしまふ。そんなことに気づいたのは、神戸の街を歩いていて「ジャズ&ステーク」なる看板を目にしたときだった。

神戸といえばステーク、神戸といえばジャズ：これは、どちらもピッタリとした組合せであり、肉はどこジャズはどこと目の色を変えてもおおしくない世界のはずだ。だが、この看板には、そんな極め付の味わいを、まことに無難作にくつつけてしまったという楽観的風通しのよさがある。

ジャズ……といえば、東京ではすぐにコンサート的なムードが浮ぶが、神戸におけるジャズは「洗いざらしのジャズ」という趣き、角をまがればそこに流れているといったけはいがある。また、ステーク……というフレーズを東京でもてあそぶと、どこそこのステークということになるが、神戸ではこの街のステークはどこでも旨いという世界が成立する。そりゃ有名な店は飛び切りの味だろうが、そのへんの店だってけっこういけるぜといった気分があるのだ。

だから、「ジャズ&ステーク」という大雑把な組合せも十分に可能ということになる。

ま、そういうわけで私は、ジャズのライブ・ハウスで、何とも倦怠感に満ちたトーンや気分満点のムードを味わいながら、無難作にステークを食べることを、神戸という街でおぼえた。ピアノのそばには鋭いジャズ狂が陣取って乗りまくっているが、向うの方ではコンパの打ち上げ、こっちは親子団欒の光景という……東京文化のジャンル

意識からは、かなりかけはなれた匂いが、ジャズのライブ・ハウスにただよっているケースが多い。

そして、このような着流しの気軽さが、神戸という街自体の個性ではないかと思った。京都のように自分のスタイルに固執せず、大阪みたいに庶民の味を叫ばず、東京のごとくブレンド主義におちいることのない風通しのよい街……それこそが神戸という港町一流の気分というものだろう。

神戸には「初老の紳士」という世界がある。日本人が洋服を百年も着つづけて、ようやく自然に着こなせるようになったというたまたまもった初老の紳士と、神戸で何人すれちがったことだろう。着物をピシッと決めてイキがる老人ではなく、西洋という風を頬に受けて歩く、まことにゆたかな自然体の受身の姿……こんな初老の紳士の姿をながめていると、やはりその紳士と神戸という街とが同一の存在のごとくに感じられる。つまりは、ジャズ&ステークの世界でございます。

そんな街の流儀の中へ、ごくぞんざいに入っていくのかどうか……そこが神戸を味わえるか否かの分岐点になるのではないだろうか。神戸へ行ったらあの店へ……なんぞという物腰でなく、すいと風のように街へ立ちあらわれる。これこそが、神戸の味な旅をこなす、神戸らしいやり方というものであり、ジャズ&ステークの気分なのである。



著者紹介

1940年、東京生まれ。祖父に「残菊物語」の作家、村松梢風をもつ。63年に慶応義塾大学文学部卒業し中央公論社に入社。文芸雑誌「海」の編集を経て81年に退社。新しいプロレスの時代を拓いた「アプロレス3部作」他作品集「最後のベビー・フェイス」等著書は多い。82年に「時代屋の女房」で第87回直木賞を受賞。最新作は「上海ララバイ」「風の街夢あるき」

夏感リフレッシュ!



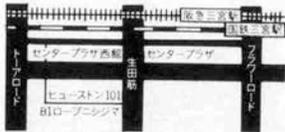
夏らしく、
ファッションも
スッキリ涼やかに
リフレッシュ
いたします。

ニシジマにご相談ください。



● サービス内容 ●

- 型くずれの防止 ● 素材感の回復 ● お客様のお好みに合せた仕上
- カルテの作成 ● ファッション、クリーニングの最新情報の提供



神戸市中央区三宮町2丁目10番7号
ヒューストン101 ☎(078)332-2440

エトランゼ



¥1,000~¥2,000

まろやかな味
デリケートな歯ざわりの
ビーフチーズサブレです。

— 北 欧 の 銘 菓 —

ユーハイム・コンフェクト

本社 神戸市中央区黒内町1-8-23 ☎221-1164